

# 令和4年度 西区組織目標

<b>組織名</b>	西 区	<b>区長</b>	水野 利数
<b>組織の目的・方向性</b>	急速な人口減少と共に少子・超高齢化が進む中、都市部と農村部がバランスよく存在し、豊かな自然環境などの西区の特徴を活かし、区ビジョンでの区の将来像「都市と農村が融合する、うるおいの住環境と優れた学術環境に育まれるまち」の実現のため、「人と人がつながり、安心・安全に暮らせるまち」、「都市と農村が融合するまち」、「だれもが学び合える学術と文化のまち」、「豊かな自然と快適な住環境を大切にするまち」、「地域と区役所が共に歩むまち」を目指した「まちづくり」を進めていきます。		

## 西区組織目標

西区では、区の将来像の実現のため、様々な分野での取組を総力あげて進めていきます。

特に、地域のなかで人と人とのつながりを大切に、ともに支え合い、いつまでも元気で健康的に、そして安心・安全に暮らせるまちづくりを進めていきます。

また、農業の振興及び食と農を活かした都市と農村の融合を進めるため、地場農産物のPRとともに、地産地消や消費の拡大に取り組みます。

この方針のもと、今年度は、次の5つの目標に重点的に取り組みます。

### 重点目標

- 1 高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できる支え合いのしくみづくりを進めます。
- 2 健康寿命の延伸を目指し、健康づくりを推進します。
- 3 子育て中の親の孤独感、不安感を軽減させ、健全な子育てを支援します。
- 4 地域防災力向上のため、津波や洪水などの自然災害から自らの命を守ることができる地域づくりを進めます。
- 5 都市と農村、生産者と消費者との交流の場を設け、地場農産物の周知と地産地消、消費拡大を図ります。

※重点目標における指標や取組状況は、各課組織目標をご覧ください。

評価

	重点目標の達成状況	目標数	5	達成数	3
取組結果	<p>超高齢社会への対応では、高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できる地域の実現のため、支え合いのしくみづくりの推進に取り組み、社会的にも深刻さを増している認知症対策として、地域での見守りを行うサポーターを育成する「認知症サポーター養成講座」を継続して実施しました。</p> <p>西区の養成講座は小中学生を対象としているため、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けやすく参加者数は伸び悩みましたが、今年度新たに実施した認知症検査と専門家による公開講座とあわせ、広く区民に対して認知症への理解を深めることが出来ました。</p> <p>人生 100 年時代が到来して超高齢社会を迎える中、区民の皆さまがいつまでもお元気で長生きしていただけるよう、健康寿命の延伸を目指し、健康づくりを推進しました。</p> <p>健康寿命延伸事業として実施したハイリスク健康相談は、月平均 12 人の利用があり、特定健診結果から健康に関する課題を確認し自身の生活習慣の見直しができました。また、健康アップカレッジは 22 人の申込があり 1 人に対して 4 回の支援を実施し、自身の課題から生活習慣改善を目指した目標の設定を行うとともに、対象者個人の評価として血液検査や食事調査等で行いました。</p> <p>西区健康ステップアップ事業として、誰でもどこでも健康教室を 16 回実施しました。また、高齢者体操自主活動支援では、今年度で区づくりでの支援を終了するため、支援者とのつなぎや次年度の活動について全団体に支援を行いました。</p> <p>少子化に対応した子育て支援では、乳児期から学齢期（前期）までの各期にわたる子育て支援講座を実施しました。また、妊娠期から 3 歳未満の子育て中の方を対象とした LINE による情報発信「にしっこはぐくみ LINK」を新たに約 1,000 人の区民からご利用いただき、令和元年 7 月の開設からの累計新規登録者数は 5,700 人超となりました。目標を大きく上回る区民にご利用いただき、子育て中の親の孤独感、不安感の軽減や、健全な子育てを支援しました。</p> <p>防災関連では、全国的に自然災害の激甚化が進んでおり、防災・減災に向けた日頃の備えが必要となっています。地域防災力の向上及び自然災害から自らの命を守ることができる地域づくりを進めるため、「地域の避難マップ」を、希望する 3 自治会とともに作成し、自治会を通じて全戸に配布しました。</p>				

産業の振興では、国の地理的表示保護制度の登録産品「くろさき茶豆」や、食と花の銘産品「いもジェンヌ」をはじめとする西区特産農産物のPR・販売促進活動を、新型コロナウイルス感染が終息していない状況を踏まえ、テレビ、SNSを活用して積極的に展開するとともに、首都圏での試食販売を再開しました。中でも、生産者・JA・商工会・区で構成する「くろさき茶豆農商工連携協議会」及び「いもジェンヌ農商工連携協議会」が運用するTwitter（茶豆）・Instagram（茶豆・いも）では、目標を大きく超えるフォロワーを獲得したことから、知名度を向上することができました。また、新型コロナウイルス感染防止のため中止していた「すいかフェア」や「いもジェンヌまつり」を3年ぶりに集客イベントとして実施したほか、区内全小学校での「西区一斉いもジェンヌ給食の日」の実施や、市内のパン屋（2ヶ所）とコラボし、イベントで限定販売した「いもジェンヌパン（4種類）」は非常に好評だったことから、後にレギュラー販売されるなど、いもジェンヌの消費拡大に繋がりました。

高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できる支え合いのしくみづくりを進めるため、区民の認知症への理解を深めていただく取り組みを継続するとともに、区民の皆さまから支え合いのしくみづくりをご理解いただくための研修会などを地域や区民と協働して取り組みます。

健康寿命の延伸や健康づくりの推進には、自らの健康状態を知ることが大切であることから、引き続き特定健診受診率の向上に向けて、未受診者への受診勧奨をあらゆる機会を捉えて実施します。また、中高年者だけでなく、子どもの健康に関心が高い子育て世代を切り口にすることで、若年世代にも生活習慣病予防の意識醸成を図るほか、健康リーダー（食生活推進委員及び運動普及推進委員）の活動を支援することにより、ロコミによる健康寿命延伸や健康づくりに関する情報発信を進めます。

子育て支援では、子どもの各年代に対応した子育て支援講座を継続するほか、「にしっこはぐくみ LINK」の内容の充実とさらなる広報を図り、育児の不安や孤独感の軽減、仲間づくりに取り組んでいきます。

防災関連では、地域防災力の向上に繋がる「地域の避難マップ」の作成は、まだ作成を希望する地域が存在することに加え、地域の防災意識の向上に効果があることから、次年度も引き続き取り組みます。また、避難所運営を実際に体験していただける機会を設け、地域主体の避難所運営の推進に取り組みます。

産業の振興では、「くろさき茶豆」をはじめとする西区特産農産物のさらなる知名度向上のため、メディアやSNSの活用や、県・銀行・JAなどの連携により、市内及び首都圏へ向けたPRを積極的に実施します。また、農商工連携協議会で運用する専用サイトやSNSを活用し、引き続き購買につなげる取り組みを推進するほか、高付加価値化やブランディングの確立を進めます。